



☆☆☆ 目次 ☆☆☆

- 1p 精神保健福祉講座の様子
- 2p 新年挨拶
- 3p 第36回精神保健福祉講座の報告
- 4p 賛助会について



第36回
精神保健福祉講座
ご来場
ありがとうございました！
👉「だって、しょうがないじゃない」の坪田義史監督です。



謹賀新年

あけましておめでとございます。令和八年の新年を迎えるにあたり、はらからの家福祉会を代表して申し上げます。

日頃より、当会の活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

昨年も『はらからWay』を道しるべに、地域での暮らしを共に考え、共に歩んできました。

グループホーム「ピア国分寺式番館」での暮らしも二年目を迎えて、そこで過ごす方々がそれぞれのペースで日々を重ねておられます。

さつき共同作業所では、陶芸作品づくりや様々な仕事を通じて、皆さんと一緒に時間をともにしてまいりました。

地域生活支援センター「プラッツ」では、日々の相談から長期的な生活設計までを共に考えながら、その方に必要な支えへとつなぐ伴走支援を続けています。多様な地域資源との連携を深め、困りごとが地域の中で孤立しないよう、環境づくりにも力を注いできました。

こうした一年の取り組みを振り返ると、地域で暮らす方々の歩みを少しばかりでも後押しできたのではないかと感じています。

午年は「健脚」の年と言われます。馬は慎重な生き物で、足元を確かめながら歩み、同時に、長い距離を根気強く走り続ける力を持っています。私たちもまた、今日この瞬間をこまやかに大切にしつつ、十年先、二十年先をも見据えて着実に進んでまいります。

現場で交わされる何気ない会話や穏やかな時間、小さな変化への気づき―そうした日々の関わりを重ねることで、利用者の皆さんが地域で安心して暮らしを営めるよう、丁寧な取り組みを続けてまいります。

世界は急速に変わり続けています。人工知能やデジタル技術、少子高齢化、制度の変更―私たちを取り巻く環境は、これからも大きく変化していくでしょう。その中にあっても、誰もが自分らしく暮らせる社会を目指し、慎重さと前へ進む力の両方を大切にしながら歩みを進めてまいります。

馬は、一頭では走れない距離も仲間となら走り抜けられると言われます。職員同士が支え合い、国分寺で共に過ごす皆さんと手を携えながら、息の長い取り組みを続けていければと願っております。

本年も至らない点が多々あるかと存じますが、長い目で見守っていただき、ご意見やご助言を頂戴できますよう、よろしくお願い申し上げます。

本年が皆さまにとって穏やかで実りある一年となりますよう、そして、私たちが共に歩む道が長く続いていきますようお願いを込めて、新年のご挨拶とさせていただきます。

令和八年 元旦



社会福祉法人はらからの家福祉会
理事長 藤田英親

第36回精神保健福祉講座を終えて

地域生活支援センタープラッツ 山中 柊人

10月25日（土）都立多摩図書館にて、第36回精神保健福祉講座を開催しました。ドキュメンタリー映画「だってしょうがないじゃない」の上映を行い、「わたしらしい暮らしのカタチ」をテーマに監督、坪田義史さんへインタビューを行いました。当日は、国分寺市民を中心に、例年より多くの方にご来場いただきました。

「だってしょうがないじゃない」は、自主上映会として2019年11月から上映開始。発達障害を持ちながら一人暮らしをしている、まことさんの私生活を撮ったドキュメンタリー映画。関東を中心に本作を通じて地域課題について啓発し続けています。

上映が始まり、スクリーンにまことさんのほのぼのとした日常が映し出され、会場は和やかな雰囲気に包まれました。

上映後、坪田監督に次の内容についてインタビューを行いました。

○本映画を制作に至った背景について

私自身、不眠症に悩んでいた時期があり、2016年に発達障害と診断される。その後、目に見えない世界に興味を持った。また、同時期に「やまゆり園事件」も重なり、まことさんを撮るようになった。

○撮影で気を付けたことについて

カメラは、使い方次第で凶器となる可能性も秘めている。また、まことさんの意思決定を尊重しながら撮影を心掛けた。

○障害者に対する想いについて

障害は、その人自身のことではなく、目の前の障壁を表していると考えている。だからあえて、障害をひらがなに変換することなく、そのまま漢字を使っている。

○今後の展望について

今作の映画続編を検討している。また、ニューロダイバーシティ（※）のような社会を目指したい。そのために、過去の美術大学での経験を活かしていきたいと思っている。

※ニューロダイバーシティ・・・脳や神経に由来する個々の特性の違いを尊重し、発達障害を含む多様な神経のあり方を社会で活かす考え方。

○来場者から以下のような質問や感想をいただきました。

まことさんの現在の様子について質問があり、デイサービスに問題なく週3回通所して入浴していることや、生活が出来ていることを最近の写真を使用して、監督が説明しました。

また、当事者の家族から共感する部分が多くあったなどの感想も挙がりました。

今回の講座を通して、障害者との共生のあり方について考える機会となり、実りある講座となりました。

【映画のあらすじ】

精神に不調をきたした映画監督/坪田義史が発達障害を持ちながら一人暮らしをする親類の叔父（まことさん）がいることを知る。坪田監督は衝動的にカメラを持ってまことさんに会いに行く。

坪田監督はまことさんとの交流を深めていく中で「親亡き後の障害者の自立の困難さ」や「障害者の自己決定や意思決定の尊重」、「8050問題にともなう住居課題」などの問題に直面していく。



はらからの家福社会賛助会コーナー

はらからの家福社会賛助会は、社会福祉法人はらからの家福社会の運営の維持・発展のために支援・協力することを目的として、主に財政的支援・協力の活動を行っています。

当会の趣旨にご賛同いただける方の入会をお待ちしております。会費は年間1口2千円からで何口でも可能です。会員の皆様には「われら同胞（本誌）」を年3回郵送し、活動報告及び会計報告を行っています。皆様からいただいた会費は、毎年取りまとめてはらからの家福社会に寄付していただき、その一部はピアサポート活動参加メンバーへの活動謝礼金として使わせていただいております。はらからの家福社会では、地域移行促進のためピアサポーターの皆さんと協働し、病院が実施するプログラムへの参加や地域との情報交流を定期的に行っております。

郵便振替口座番号

00180-8-130179

加入者名：はらからの家福社会賛助会

会費をご納入いただいた方のお名前を本紙に掲載させていただいております。匿名希望の場合はその旨通信欄にお書きください。

<令和7年4月から令和7年8月の間に会費をご納入頂いた皆様（順不同 敬称略）>

須長 靖夫 服部 道枝 藤沢 歩 森 美知子 武田 康男 加藤 由美子 高見 法孝

（株）円グループ 匿名1名 会員の皆様、本当にありがとうございます。



今後ともなにとぞ宜しくお願いいたします。

助成の御礼：公益財団法人 JKA 様

（競輪とオートレースの補助事業）

さつき共同作業所の就労支援車両購入費の助成をありがとうございます。清掃等作業や陶芸品販売会の移動など、大事に使わせていただきます。

【編集後記】

今年も「いつもと同じ」でいきましょう。

それでも、「今年は変えたい」という思うことが出てきたら、とりあえず始めてみましょう。

私たち、はらからの家福社会の活動が皆様の一助となれば幸いです。

今年もどうぞよろしくお願いいたします。

われら同胞編集委員 一同

はらからの家福社会ホームページ

<http://harakaranoie.com/>

【編集人】

社会福祉法人はらからの家福社会

〒185-0021

東京都国分寺市南町 3-4-4

TEL 042-323-5637

【発行人】

障害者団体定期刊行物協会

〒157-0072

東京都世田谷区祖師谷 3-1-17-102

【定価】¥120

